

保護者による学校支援の新たな取組み 揖斐川町立揖斐小学校

1 はじめに

学校を取り巻くさまざまな社会情勢が大きく変化をしている近年。その一つに、PTA活動もあげられ、全国的に大きく話題となっています。考え方の多様化が進む中で、全ての保護者が当然のようにPTAに所属し活動に参加する時代ではなくなってきたようです。そこで、揖斐小学校では、昨年度1年かけて議論し準備を進め、今年度から新たな組織が立ち上がりました。

2 新たな活動の動き出しをつくる

組織の名称は「子どもたちの健やかな成長を願う会（通称・すこやか会）」です。これまでのPTAとは全く異なる発想で、固定の委員会も会費も存在しません。これまでの活動を継続しなければという発想もありません。「やれる者が、やれる時に、やれることを」が基本です。そして、「所属する・しない」の発想もなく、揖斐小の子どもたちの健やかな成長を願う者の集合体という位置付けで、保護者、教職員だけでなく、地域も巻き込む発想です。

これまでは、役員を引き受けたり、活動を引き継いだりという「義務」が発生し、それが「やらされ感」につながっていました。しかし、新たな組織の立ち上げのために、旧PTA執行部で議論を重ね、新組織立ち上げの提案

をしたところ、20名近い保護者の方がすこやか会の運営の協力に名乗り出ていただけました。

現在は、長年続いてきた「ふれあいリサイクル」の見直しに奮闘中です。子どもたちと地域の方のふれあいが生まれるような活動にすべく、また、子どもたちがリサイクルについて学べる活動にすべく、運営協力を申し出てくださったスタッフで議論を重ねています。また7月には、すこやか会の呼びかけで、地域の方も巻き込んだ校地内の環境整備も行われました。

3 今後の充実に向けて

すべては、「子どもたちの健やかな成長を願う」です。これまで継続してきた組織ありき、活動ありきではなく、子どもたちのために、我々大人は今何をすべきなのか、何をしてやりたいのか、何ならできるとかという発想です。スタッフの間では、映画の上映会、農業体験、命の学習等の企画が提案されています。「こんなことをやってみたい」という話題には事欠きません。まだまだ手探り状態ですが、無理なく、緩やかに充実していくことを願っています。



豊かな心を育む異学年交流活動の工夫 揖斐川町立清水小学校

本校では、学校の教育目標「きよらかな心でよく考え みずから活動する子」の具現に向け、異学年交流を大切にした教育活動を展開しています。本校において、主役である児童一人一人が「学校が楽しい」と心から感じ、よりよい未来を切り拓く力を育むための3つの工夫を紹介します。

1 児童の願いから生まれた「にこにこ班活動」

1点目は、異年齢集団による「にこにこ班活動」です。この名称は、昨年度末にアンケートを実施し、児童の思いを基に決定しました。これまでは遊び中心の活動でしたが、今年度は児童が主役となり、「校内オリエンテーリング」「全校遊び」「掃除」等、活動の幅を広げたいという願いをもっています。

活動を通して、

高学年が低学年に優しくする姿や、知恵を出し合う姿も見られます。「自分たちの学校の活動は、自分たちで創り上げる」という経験を重ねること、児童の中に主体性と責任感が芽生えています。

「にこにこ班活動」について

◎とても楽しい・楽しい・・・98.2%

→他学年と一緒に楽しく活動できる
色々な遊びができて楽しい 等
(R.8.6実施 アンケート結果から)

2 学びの可能性を広げる「合同体育の授業」

2点目は、教科の体育の学習において、複数学年合同で学ぶ機会を意図的に設定していることです。異なる学年が場を同じにすることで、新しい「学び」が生まれます。高学年が「こうすると上手くいくよ」と手本を見せながら方法を教え、低学年はその熱心な姿に憧れを抱いて挑戦する、この関わり合いの中で、互いのよさを認め合い、切磋琢磨しながら「よりよく生きる力」を育もうとしています。



3 地域を愛し、共に育つ「地域貢献の活動」

3点目は、にこにこ班の絆を校内から一歩外へと広げて展開する、地域における異学年活動です。今年度は、地域清掃なども計画しています。清水地域の美しい環境を守る活動を通して、ふるさとへの愛着や社会に貢献する意識を高めていきたいと思っています。

主役であるどの子どもが学校生活を楽しいと感じ、笑顔が輝く清水小学校であるために、これからも児童が主体的となった挑戦を全力で支え、温かな交流活動を推進してまいります。



みんなで考えよう! これからの学校教育の在り方。

第6回 学校教育の在り方審議会(答申策定に向けた論点整理) 必要な教育内容・教育方法と学校統合の必要性等について

第6回学校教育の在り方審議会・通常会議を6月19日(金)に開催し、事務局からの答申策定に向けた「論点整理」を受けて審議が行われました。

「論点整理」では、住民アンケートの結果や地区集会等での意見を踏まえた課題を5点設定するとともに、それぞれについて審議会としての「基本的な考え方」を提案しました。以下にその概要を説明します。

■(論点①) 必要な教育内容・教育方法

【課題】 ◎少子化・学校の小規模化に伴う学びの困難さをどう克服するか。

1 確かな学力の育成

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランスを工夫
- ・「非認知能力」(学びに向かう力等)の育成
- ・実生活・実社会の課題解決に学ぶ「探究的な学び」の充実

2 地域社会(ひと・もの・こと)とのつながりを大切にした教育の推進

- ・異年齢・世代、異文化・言語等、さまざまな人たちとの交流を通して、思いやりの心や寛容な心等、豊かな心を醸成
- ・地域の自然・歴史、伝統文化等に学ぶ体験的な活動を位置付けた「ふるさと学習」を通した、ふるさとへの誇りと愛着の育成

- 3 だれ一人取り残さない教育の推進
- (1) 特別支援教育の充実
- ・児童生徒の発達特性、障がいの状況等に応じた支援と教員のスキルアップ

- (2) 不登校未然防止と児童生徒等支援の推進(R1:23人→R7:44人)

- ・小1プロブレムと中1ギャップの解消
- ・民間を含む関係機関との連携による居場所づくりと学びの機会の提供

(3) 学び直しの機会の確保

- ・生涯にわたって学び続けることができる環境・場の提供

■(論点②) 学校統合の必要性

【課題】 ◎学校統合のメリットとデメリットの優位性が判断できない。

1 学校統合に対する住民の意向(住民アンケート調査の結果)

- ・多くの仲間と関わりながら切磋琢磨できる環境(58%)
- ・小学校1学年の適正なクラス数として2クラス以上(82%)
- ・中学校1学年の適正なクラス数として2クラス以上(93%)
- ・少子化や施設の老朽化の場合は統合を考えた方がよい(57%)

2 人口推計データに基づく学校統合の合理性

- ・出生数の減少が続いており、直近2年間は48人(学年2クラス規模)
- R14:小400人、中298人、R17:小296人、中242人
- 3 メリットを活かしデメリットを最小化する取組み

- ・クラス替えが可能な学年の集団規模を確保しつつ、県費加配教員・町費職員の配置により個に応じたきめ細かな指導を充実
- ・スクールバスを効果的に運行することで通学の安全性と時間短縮を保障

■(論点③) 統合する場合の規模と時期

【課題】 ◎学校統合する場合の規模と時期をどうするか。

1 学校統合の規模と時期

- ・住民の意向、児童生徒数および学級数の推移を踏まえ、小学校1校と中学校1校が妥当(併設または単独)
- ・学校規模に合う令和14年以降が適当
- 令和14年には、小学生が400人、中学生が300人をそれぞれ下回り、学年のクラス数が、小学校では過半数の学年で2学級となり、中学校では全学年で3学級となる。

2 留意事項

- * 小学校を段階的に統合することについては、児童の心的負担が生じること、校舎改修等、財政的な負担が大きいことなどにより困難
- * 組合立養基小学校の統合が検討され

ることになれば池田町と合意形成が必要

■(論点④) 統合する場合の設置場所

【課題】 ◎学校統合する場合の設置場所をどうするか。

1 児童生徒の通学に係る負担をできるだけ軽減することに配慮

- (1) 町内の人口重心を考慮した場所
揖斐川町上南方565番地付近(東経136度33分、北緯35度29分)
- (2) 町内の各地域から均一な距離と時間にある場所

- 北西:坂内広瀬く北和中24km・44分
- 北東:谷汲高科く北和中15km・40分
- 南西:春日寺本く北和中15km・40分
- 南東:小柳糠吹く北和中7km・20分

【既存の学校】 北和中

- 2 自然災害のリスクを軽減できる場所
- ・土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、浸水区域、のいずれにも指定されていないエリア(「防災ハザードマップ」参照)

【既存の学校】 北和中



「学校教育の在り方シンポジウム」

【日時】 8月22日(土)

【会場】 午後1時30分～4時

【会場】 揖斐川町地域交流センター

【会場】 はなもも・ホール

(申込み不要、入場無料)